

極限法ワークシート

氏名: _____

日付: _____

試行番号	上弁別閾	下弁別閾
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
合計		
平均		

問題 1: 第 1 試行の上弁別閾はいくつでしたか？

問題 2: 平均上弁別閾を計算して下さい。

問題 3: 平均下弁別閾を計算して下さい。

問題 4: 不確定帯 (IU) を計算して下さい。

問題 5: JND を計算して下さい。

問題 6: PSE を計算して下さい。

問題 7: 全ての「等しい」反応の平均を PSE と比較するとどうなりますか。

- A. 平均の方が小さい
- B. 両方とも等しい
- C. 平均の方が大きい

問題 8: データには期待誤差か慣れの誤差の証拠があるでしょうか、あるいはそのどちらもないでしょうか？

- A. 期待誤差

- B. 慣れの誤差
- C. どちらもない

問題 9: もしある被験者が、各試行系列において「等しい」という反応を 1 回しかせず、別な被験者は各試行系列において「等しい」という反応を平均 7 回したとすれば、どちらの被験者のデータがより大きな JND を示しますか。

- A. 最初の被験者
- B. 二番目の被験者
- C. どちらも JND は等しい

問題 10: 上昇系列と下降系列の試行数が等しい場合、前の問題に出てきた被験者のうち、どちらのデータがより大きな PSE を示すでしょうか。

- A. 最初の被験者（各試行系列につき 1 回の「等しい」反応）
- B. 二番目の被験者（各試行系列につき 7 回の「等しい」反応）
- C. どちらの PSE も等しい

恒常法ワークシート

氏名: _____

日付: _____

正確な答をグラフから読み取るのはむずかしいので、この方法では ± 0.5 のずれは正答とします。

あなたのデータのグラフを参考に全ての問題に答えて下さい。

問題 1: グラフから PSE の値を推定して下さい。

問題 2: グラフから上弁別閾を推定して下さい。

問題 3: グラフから下弁別閾を推定して下さい。

問題 4: グラフから IU を推定して下さい。

問題 5: グラフから JND を推定して下さい。

問題 6: 左利きの被験者は二つの刺激が並んで提示されると、「より長い」のボタンをクリックする傾向があったと仮定して下さい。このようなバイアスがない被験者と比較して、これは PSE をどの様に変化させるでしょうか。

- A. より大きくなる
- B. より小さくなる
- C. 同じである

問題 7: 理想的なデータでは、UT-PSE と PSE-LT は等しくなります。あなたのデータでは、UT-PSE がいくつになるかを計算して下さい。

問題 8: 理想的なデータでは、UT-PSE と PSE-LT は等しくなります。あなたのデータでは、PSE-LT がいくつになるかを計算して下さい。

問題 9: UT-PSE と PSE-LT は両方とも「真の JND」の推定値です。これら二つの推定値の平均は問題 5 で計算された JND と等しいでしょうか。(はい/いいえ)

調整法ワークシート

氏名: _____

日付: _____

ここでは、答の数値を小数第一位まで丸めてください。丸め方が違えば、答も少し変わることにご注意して下さい。

試行番号	測定値	(測定値 - 平均値)	(測定値 - 平均値) ²
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

合計			
平均		標準偏差	JND

問題 1: あなたのデータの平均を計算してください。

問題 2: あなたのデータの標準偏差を計算してください。

問題 3: あなたの JND を計算してください。

問題 4: あなたのデータの PSE を計算してください。

問題 5: あなたのデータの UT を計算してください。

問題 6: あなたのデータの LT を計算してください。

問題 7: あなたのデータの IU を計算してください。

問題 8: あなたの反応がいかに信頼できるか、あるいはいかに変動しているかを表しているのは、次のうちどれですか?

- A. UT と LT.
- B. PSE.
- C. UT か LT.
- D. JND と IU.

問題 9: あなたの各測定値に 10 ユニットを加えたら、あなたが計算した値の中で変化しないものはどれですか?

- A. PSE.
- B. JND.
- C. UT.
- D. 全部変わる
- E. 何も変わらない

問題 10: 調整法では、比較刺激が標準刺激より明らかに「より長い」か「より短い」状態から測定が始まります。仮に、全試行が明らかにより長い刺激から始まり、被験者が特定の矢印キーに指を乗せたままにする傾向がある（すなわち、慣れの誤差）と想像して下さい。どうなりますか?

- A. JND が増加する
- B. JND が減少する
- C. PSE が増加する
- D. PSE が減少する

ウェーバーの法則ワークシート

氏名: _____

日付: _____

あなたのデータのグラフまたは下の表を参考に、すべての問題に答えて下さい。

標準刺激 の番号	標準刺激 の大きさ	PSE	JND
1			
2			
3			

問題 1: データにあわせて引かれた最も適合する線の傾きを計算して下さい。

問題 2: ウェーバー比を計算して下さい。

問題 3: あなたの変動誤差は刺激が大きくなるとより大きくなりますか? (はい/いいえ)

問題 4: あなたの判断は刺激が大きいくほどより精度が高くなりますか? (はい/いいえ)

問題 5: 一般的に、確度はより小さい刺激を判断する場合に高くなりますか? (はい/いいえ)

問題 6: ウェーバーの法則に従えば、10 グラムを足した場合に最も気がつきやすいのはどの重さでしょうか? (重さのウェーバー比は 0.07 です。)

- A. 1 キログラム
- B. 2 キログラム
- C. 3 キログラム

問題 7: 重さの弁別実験で以下の結果が得られたと想定して下さい。

標準刺激	JND
50 g	2 g
100 g	4 g
200 g	8 g

ウェーバーの法則に従えば、400g の標準刺激に対する JND はどの程度大きくなるはずでしょうか?

- A. 10 g.
- B. 12 g.

C. 16 g.

問題 8: チュートリアルの実験を恒常法で、14 種類の異なる比較刺激を用いて 3 種の異なる線分の長さに対して同じ刺激値の範囲でもう一度やってみるとしましょう。最も短い標準刺激が呈示された時に、最も短い比較刺激に対して 20%の「より長い」反応が、最も長い比較刺激に対して 85%の「より長い」反応が得られたと仮定して下さい。もしもウェーバーの法則が成り立つなら、より長い線分に対する比較刺激の範囲も同じにできるでしょうか? (はい/いいえ)

ミュラー・リヤー錯視ワークシート

氏名: _____

日付: _____

下の表を参考に、全ての問題に答えて下さい。

条件 番号	標準刺激	JND	PSE	POE
1	>-----<			
2	I-----I			
3	<----->			

問題 1: 矢羽根の向きは PSE の大きさに影響しますか？ (はい/いいえ)

問題 2: 番号 1 の条件での恒常誤差を計算下さい。

問題 3: 番号 2 の条件での恒常誤差を計算下さい。

問題 4: 番号 3 の条件での恒常誤差を計算下さい。

問題 5: あなたの判断の確度が最も高かったのはどの条件ですか。番号で選び下さい。

問題 6: あなたの判断の精度が最も高かったのはどの条件ですか。

問題 7: 実験の結果、恒常誤差は条件 A で 5、条件 B で -5 でした。被験者の確度がより高かったのは、どちらの条件でしょうか。

- A. 条件 A
- B. 条件 B
- C. 両条件での確度は等しい

問題 8: 実験手続きを下降系列の試行のみにしたところ、被験者は正の恒常誤差を示した。この結果の理由 (原因) として考えられるものは何か。

- A. 錯視
- B. 期待誤差
- C. それら両方